



平成24年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学、理科
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - A：「知識」など基礎学力に関する問題
 - B：思考力など「活用」に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成24年4月17日（火）
- 6 調査対象
 - 抽出調査対象校
 - 全国（国公立小学校） 5,231校（抽出率24.8%）
 - 秋田県公立小学校 97校（抽出率41.3%）
 - 全国（国公立中学校） 4,478校（抽出率41.5%）
 - 秋田県公立中学校 68校（抽出率54.8%）
 - 希望利用校
 - 全国（国公立小学校） 11,963校（希望利用対象校の75.5%）
 - 秋田県公立小学校 138校（希望利用対象校の100%）
 - 全国（国公立中学校） 4,196校（希望利用対象校の66.5%）
 - 秋田県公立中学校 56校（希望利用対象校の100%）

Ⅱ 教科に関する調査結果

※抽出調査であり、平均正答率は誤差も含めた数値の幅推計値の95%の信頼区間〔棒グラフ上部「エ」〕)を踏まえる必要があるとの国の分析方法に準じ、市としての分析を行った。

1 概要

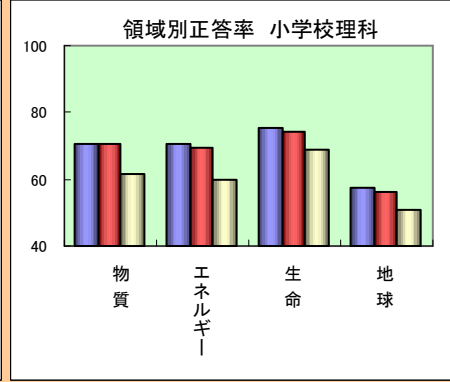
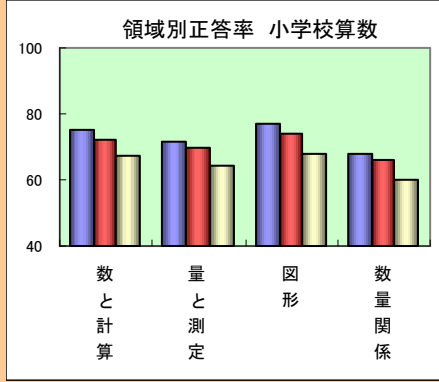
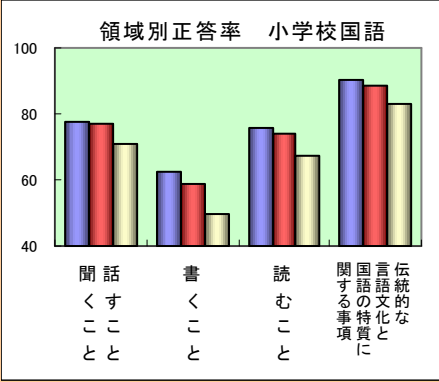
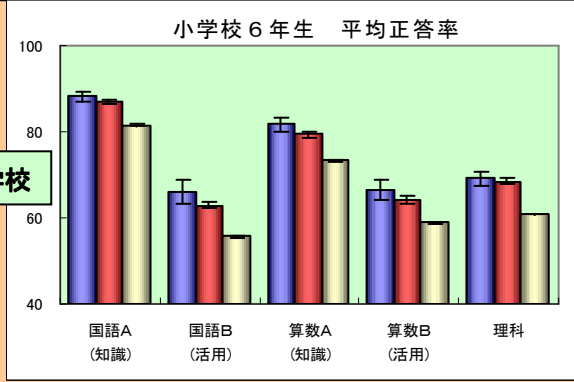
- 本市は、小・中学校共に全ての教科において、全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。
- 国語と算数・数学について、領域別の平均正答率を経年比較で見ると、各教科とも国や県との差が広がってきている。特に小学校の国語では「書くこと」の領域が、中学校の数学では「数と計算」の領域が顕著である。
- 領域別正答率で見ると、小学校の国語については「書くこと」の領域が、中学校の数学については「数量関係」の領域が低い。中学校の理科については、ほとんどの領域が他教科よりも平均正答率が低く、特に「物理的領域」が課題である。

結果

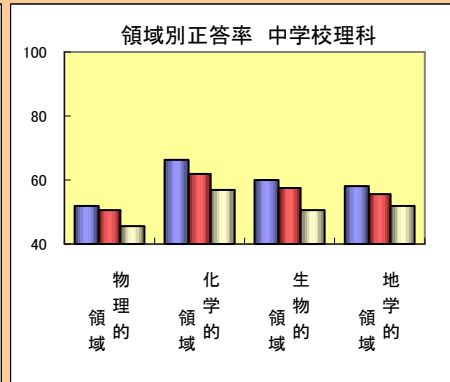
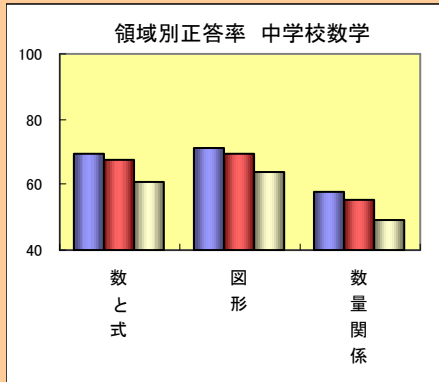
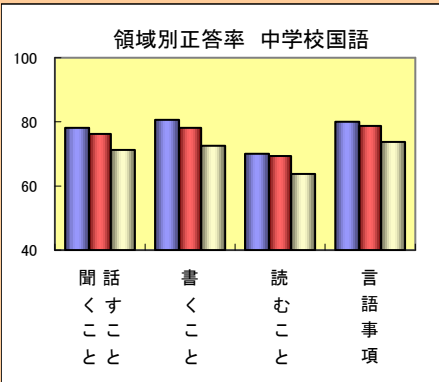
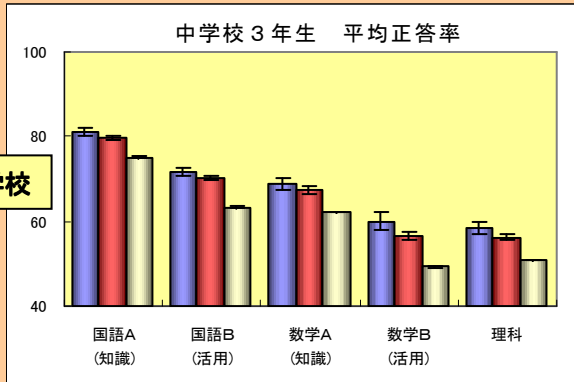
【資料】教科別・領域別平均正答率の状況

大仙市
秋田県
全国

小学校



中学校



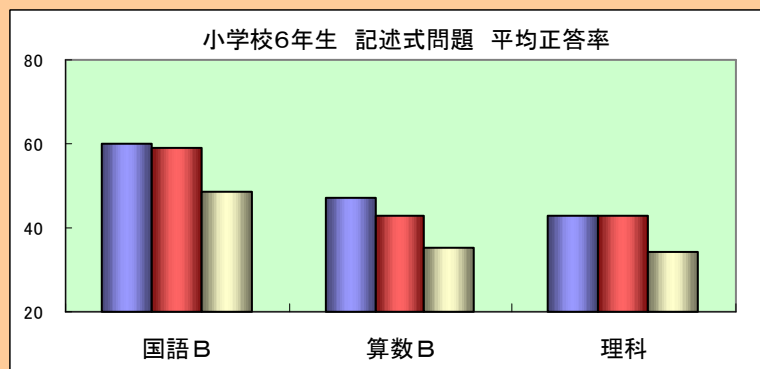
Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

1 傾向

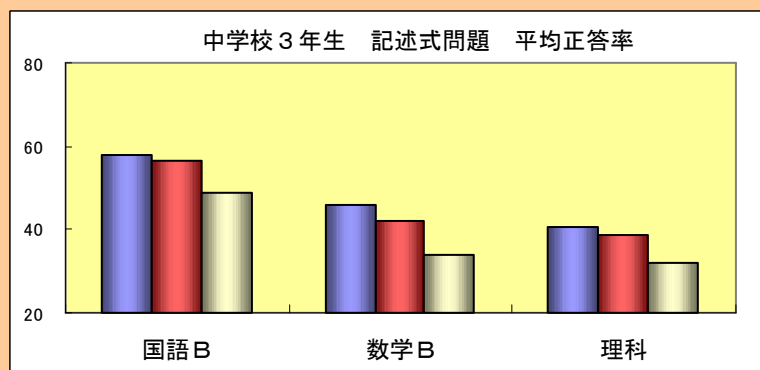
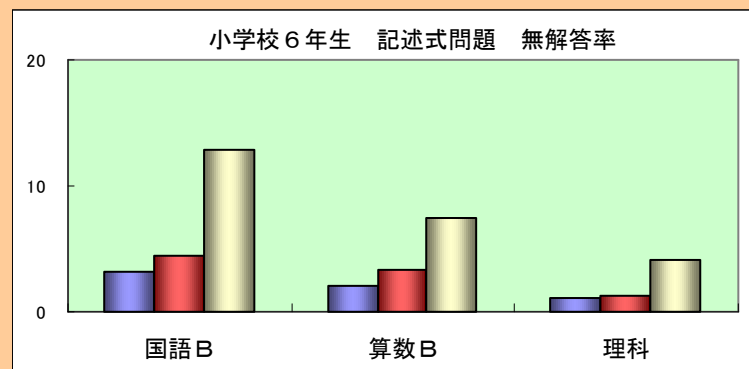
◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

- 小学校、中学校共に全教科で無解答率が低い。
- 記述式の問題でも正答率が高く、全国及び本県平均を上回っており、無解答率も低い。
- 学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない。

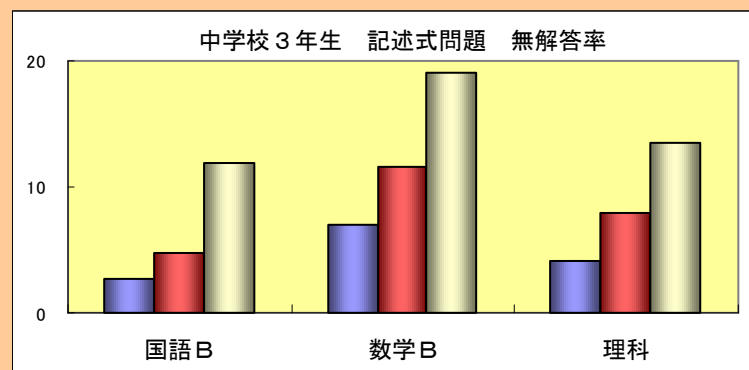
【資料】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 児童生徒は基本的な学習習慣を身に付け、進んで意見を書いたり、発表したりするなど意欲的に学習に取り組んでいる。
- 難しい問題にも時間いっぱい取り組んでいる児童生徒が多い。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 基礎テストや、放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- チームティーチングや少人数指導などの効果が表れている。

③ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 継続的な読み聞かせや読書活動を推進している。
- 小学校における教科担任制の導入、幼保・小・中・高・大など異校種間の連携・交流などにより学習活動の充実を図っている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

④ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

- 文部科学省指定事業や少人数学習推進事業、小・中連携いきいきスクール事業、教育専門監制度、理数学力向上推進班による単元評価問題など、国や県の施策を積極的に活用している。
- 学校支援地域本部事業などにおいて、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 市PTA連合会を通じて、学力向上に向けた取組について保護者への理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ、生活習慣の確立、環境教育の推進、被災地の支援・交流活動）
 - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携
 - ・体験的学習の時間支援事業実施
 - ・学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・学力向上推進委員会の開催（学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成）
 - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員等による訪問、教育長等による訪問、指導主事訪問 など）

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

- ①「知識」に関する問題については、全国や県の結果に比べて良好であるが、小学校算数の「数量や図形についての知識理解」「数量や図形についての技能」、中学校国語の「言語についての知識・理解・技能」、中学校理科の「観察実験の技能」において、国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得の徹底を図る必要がある。
- ②「活用」に関する問題については、全国や県の結果に比べて良好であるが、小学校では全ての教科で平均正答率40%未満の問題があり、平均正答率の学校間格差が40～87%の問題もある。中学校では、特に数学で平均正答率40%未満の問題が15問中4問ある。
- ③学力向上推進委員会が「本市の課題と改善に向けて」で提示した取組の提案やフォローアップシートを有効に活用し、授業改善に向けた取組を一層推進する必要がある。

課題が見られた活用に関する問題例（国語）

【小学校国語B3四】
 全国平均正答率 37.7%
 県平均正答率 51.4%

○複数の記事を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する。

【中学校国語B1三】
 全国平均正答率 19.7%
 県平均正答率 23.7%
 ○相手の発言を注意して聞き自分の考えを書く。

第1回（4月号）世界のトップランナー

「金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめています。金子さんがまとめた内容の□の中には、どのような内容を書きましたか。□の条件に合わせて書きましょう。」

日本の男子選手は、
 □（省略）□

日本の女子選手は、世界的に活やくしてきています。そのように考えた理由は、

○「ランンの世界記録上位5人と日本人選手の記録の二つの記事を読みながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を明らかに出して、まとめるように書くこと。○「そのように考えた理由は」に書くために、四十文字以上、六十文字以内でまとめて書くこと。」

【中学校国語B1三】
 全国平均正答率 19.7%
 県平均正答率 23.7%
 ○相手の発言を注意して聞き自分の考えを書く。

四 金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめた内容の□の中には、どのような内容を書きましたか。□の条件に合わせて書きましょう。

【金子さんがまとめた内容】

日本の女子選手は、世界的に活やくしてきています。そのように考えた理由は、

○「ランンの世界記録上位5人と日本人選手の記録の二つの記事を読みながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を明らかに出して、まとめるように書くこと。○「そのように考えた理由は」に書くために、四十文字以上、六十文字以内でまとめて書くこと。」

【各回の主な内容】

- 【第1回】(4月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史
- 【第2回】(5月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史
- 【第3回】(6月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史

美しい日本語とは
 大岡 玲さん × 大岡 檀さん × 大岡 ふみさん

次は、作家の大岡玲さんと女優の大岡ふみさんの対談の一部です。これ

欧米の言語に負けないリス、でも、言葉は時代とともにくもの。昔の言葉がいいとはいえませんがね。

大岡 今、私たちが使っている日本語は、明治以降、すべてが理解できる国語の創出になって、国家の関与もありなってきたものですね。その金がおつしやっているように、「通じる」という点で、ないかもしれない。

檀 なるほど。日本語はまだ完成形ではないんですね。

大岡 それに「言葉の乱れ」は、昔もありました。清は、「枕草子」のなかで、「吉田然草」のなかで、「言葉の乱れ」を語っています。

四 金子さんは、日本の女子選手と男子選手のそれぞれについて考えたことをまとめた内容の□の中には、どのような内容を書きましたか。□の条件に合わせて書きましょう。

【金子さんがまとめた内容】

日本の女子選手は、世界的に活やくしてきています。そのように考えた理由は、

○「ランンの世界記録上位5人と日本人選手の記録の二つの記事を読みながら読み、金子さんの考えの理由となる事実を明らかに出して、まとめるように書くこと。○「そのように考えた理由は」に書くために、四十文字以上、六十文字以内でまとめて書くこと。」

【各回の主な内容】

- 【第1回】(4月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史
- 【第2回】(5月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史
- 【第3回】(6月号)
 - 世界のトップランナー?
 - ・世界記録上位5人と日本人選手の記録
 - ・ランニングの歴史
 - 世界のトップランナー?
 - ・ランニングの歴史
 - ・ランニングの歴史

＝国語の課題と改善に向けて＝

■H24年度の調査結果に基づく主な課題

- ・手紙の構成を理解し、後付を書くこと。(小)
- ・目的や意図に応じ、複数の情報を関連付け、条件に応じて自分の考えをまとめて記述すること。(小)
- ・比喩という言葉と結び付けて表現の仕方を理解すること、目的に応じて必要な情報を読みとること。(中)
- ・文脈に即して語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(中)
- ・相手の発言を注意して聞き、自分の考えを具体的に書くこと。(中)

□主な改善策

- ・各領域の学習で、目的や意図に応じて必要となる事柄を明確にし、自分の考えをまとめる学習を進めたい。

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

課題が見られた活用に関する問題例（算数・数学）

課題が見られた活用に関する問題例（理科）

【小学校算数B2二】

全国平均正答率 26.8%
県平均正答率 30.2%

○必要な情報を用いて指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述できる。

(2) ゆかりさんたちは先生から、小型と中型のとび箱を、同じ高さにして準備するようにたのまれました。

まず、みんながよく練習している小型のとび箱を5段にしました。

そのときの高さは70cmでした。



次に、中型のとび箱を小型のとび箱と同じ70cmの高さにしようと思います。

中型のとび箱を70cmの高さにすることはできますか。

下の1と2から正しいほうを選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 中型のとび箱を70cmの高さにすることはできる。

2 中型のとび箱を70cmの高さにすることはできない。

【中学校数学B5三】

全国平均正答率 22.5%
県平均正答率 26.6%

○問題解決の方法を数学的に説明することができる。

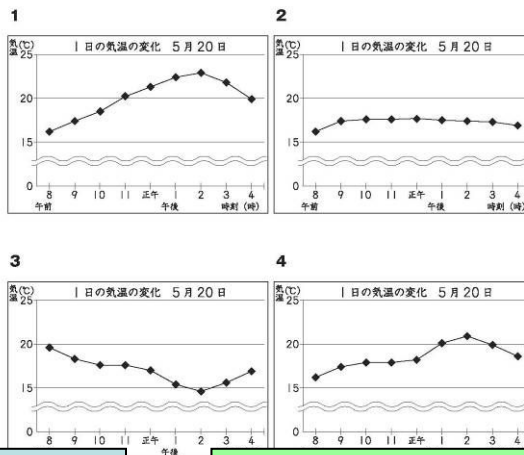
【小学校理科4(5)】

全国平均正答率 16.9%
県平均正答率 21.8%

○データを基に分析して、その理由を記述できる。

(5) 三郎さんは、同じ日に気温をはかりました。

この日のかげのようすから1日の気温を考えると、気温の変化を表したグラフはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。



レポート2 続いて昌夫さんは、図1の豆電球を発光ダイオードに交換して、実験1と同様に実験2を行いました。次は、そのレポートの一部です。

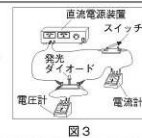
実験2

【方法】図3の回路で実験を行う。

※ 発光ダイオードの足の長い方を+につなぎ、短い方を-につなぎ。

【結果】

- ① 電圧が0.4V、1.2Vのときは光らなかった。
- ② 電圧が2.0Vのときは、明るく光り、そのときの電流の大きさは20mAであった。



実験を終えて、昌夫さんは先生と話をして考察しました。

考察1

先生：昌夫さんは、実験1、2を別々に行い、その結果をまとめたんですね。

ところで、家庭では、いろいろな電気器具を同時に使いますね。家庭の回路のように、豆電球と発光ダイオードを1つの回路で同時に使用しても測定できますね。このように、1つの回路で、実験1、2と同じ結果を得るためには、どのような回路をつくって測定すればよいですか。

昌夫：豆電球と発光ダイオードに同じ電流を流すために、それらを直列につないで測定すればよいと思います。

(2) 先生の問いかけに対する昌夫さんの考えには、誤りがあります。実験1、2と同じ結果を得るために、下線を正しく書き直さない。

考察2

昌夫：実験1、2の結果から、電圧2.0Vのときの、豆電球が消費する電力と発光ダイオードが消費する電力を計算して比べると、発光ダイオードの方が X Y ことがわかりました。したがって、このモデル実験から、新聞記事にもあったように、自然電球とLED電球では、LED電球の方が省エネの効果があると考えられます。

【中学校理科2(2)】

全国平均正答率 7.6%
県平均正答率 8.9%

○知識を活用して他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明することができる。

＝算数・数学の課題と改善に向けて＝

■H24年度の調査結果に基づく主な課題

- ・場面と図を関連付けて二つの数量関係を理解すること。(小)
- ・必要な情報を用いて判断し、その理由を説明すること。(小)
- ・数学的な結果から成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明すること。(中)
- ・問題解決の方法を数学的に説明すること。(中)
- ・数量関係の中で一次関数を捉えること。(中)

□主な改善策

- ・事柄が成り立つ理由や問題解決の方法などを数学的な表現を使って説明する活動を充実させたい。

＝理科の課題と改善に向けて＝

■H24年度の調査結果に基づく主な課題

- ・結果を基に方法を改善してその理由を記述すること。(小)
- ・方位磁針の適切な操作や技能に関する知識の定着。(小)
- ・データを基に分析してその理由を記述すること。(小)
- ・既習の知識を活用して、他の実験方法を検討改善し、正しい実験方法を説明すること。(中)
- ・電力量の理解。(中)

□主な改善策

- ・科学的な知識や概念と根拠に基づき、観察・実験の結果を分析して説明する指導を充実させたい。

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

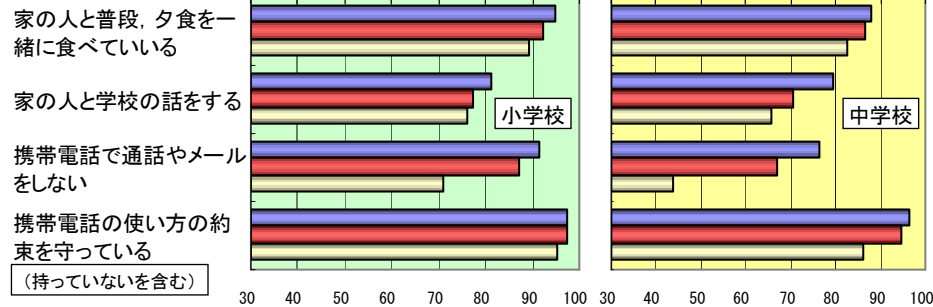
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や県の平均を上回っており、児童生徒はおおむね望ましい生活習慣が形成されていると考えられるが、引き続き実態を踏まえた指導に留意する必要がある。
- 調査対象の児童生徒は、小・中学生共に夢や目標、規範意識や思いやり、意欲などの道徳性にかかわる質問項目において良好な状況がみられる。地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して豊かな心が育まれている成果と捉えている。

2 結果

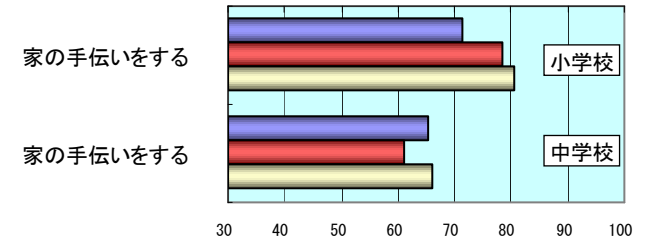
(1) 生活習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

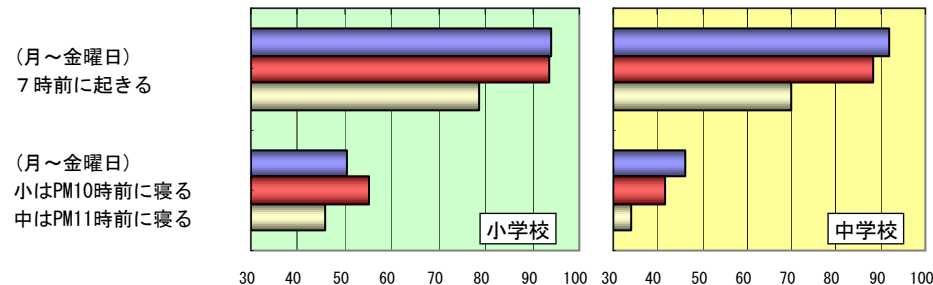
【資料3】生活習慣の様子（小・中学校）



【資料5】家の手伝い（小・中学校）



【資料4】起床・就寝時刻（小・中学校）



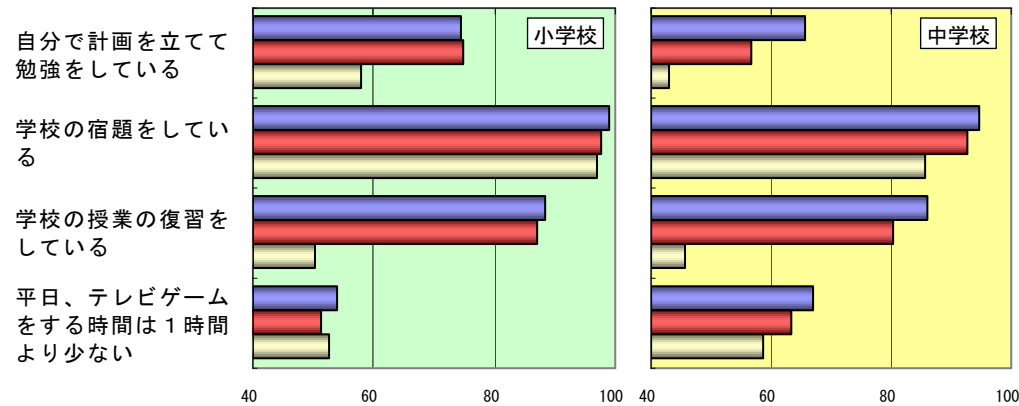
- 小学校の「午後10時前に寝る」が本県平均を下回っているが、他の項目は小・中共に全国や県を上回っており、児童生徒はおおむね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣が身に付いているものと言える。
- 「家の手伝いをする」は、小学校で国や県平均を下回っている。各学校では保護者と連携して手伝いの励行を促している。「ときどきしている」と「あまりしていない」の選択肢の選択には、児童生徒によって判断基準に差が大きいと思われる。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

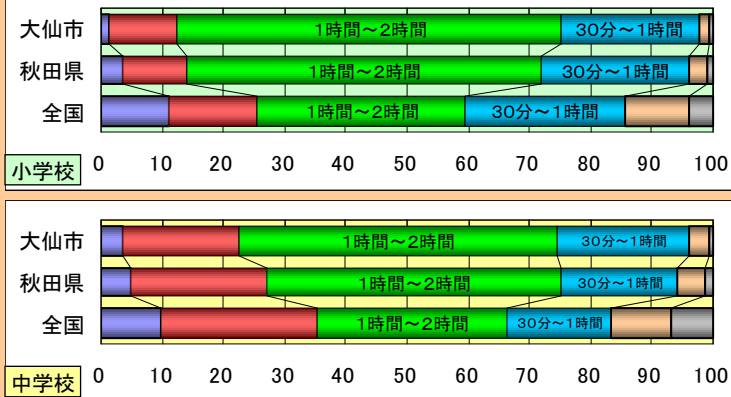
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料6】家庭学習の様子(小・中学校)

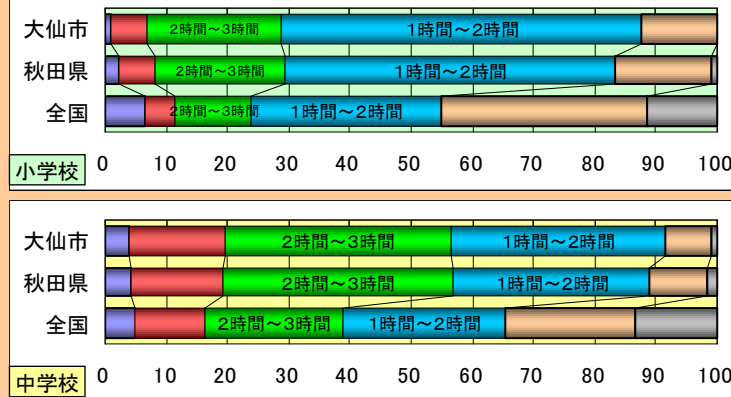


○小・中学生共に宿題や授業の復習によく取り組んでおり、特に中学生は自ら学ぶ姿勢が身に付いている。
○平日、休日とも学習時間「1～2時間未満」の割合が、小・中学校共に国や県より多く、「全く学習をしない」割合は少ない。ただし、「3時間以上」は、小・中学校共に国や県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子がわかる。

【資料7-1】平日の学習時間(小・中学校)



【資料7-2】休日の学習時間(小・中学校)



【資料8】平均学習時間(小・中学校) [単位:分]

学校	平日	休日
小学校	110	130
大仙市	110	130
秋田県	110	130
全国	110	110

学校	平日	休日
中学校	120	160
大仙市	120	160
秋田県	120	160
全国	120	130

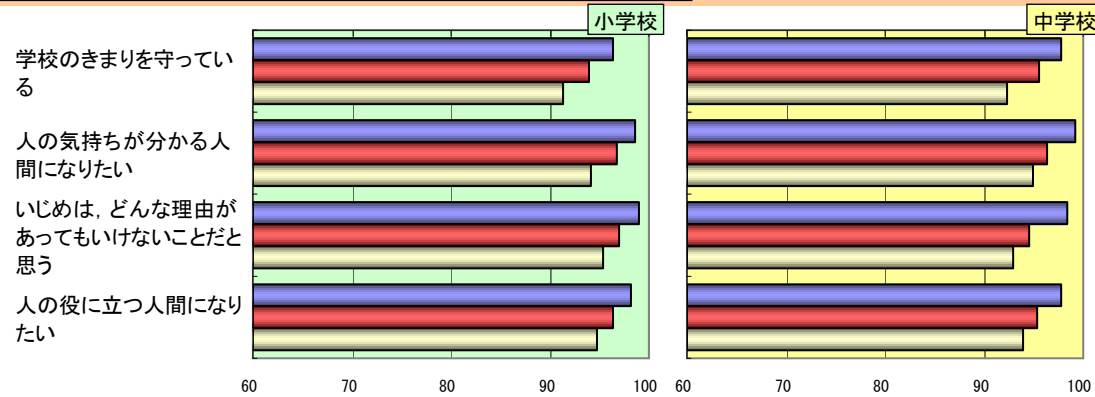
(休日は1時間増)
 3時間以上 2~3時間 1~2時間 30分~1時間 30分未満 全くしない

IV 学習環境に関する調査の結果

2- (3) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

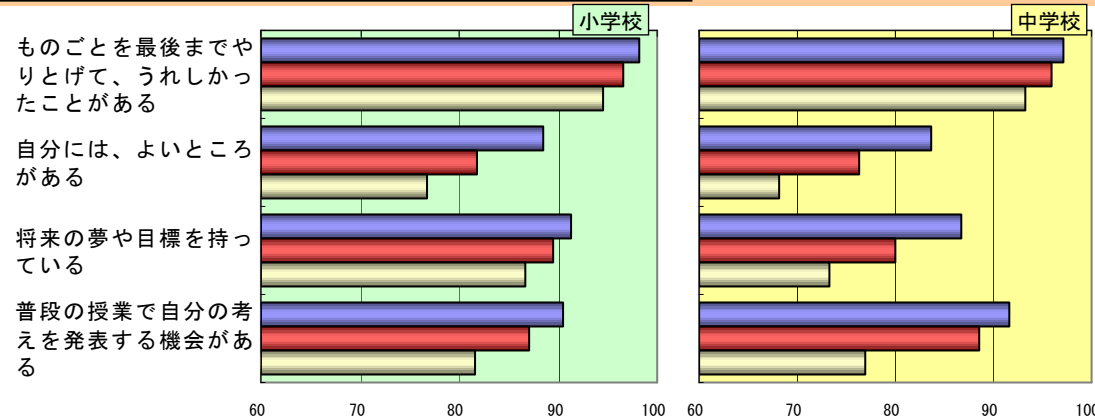
【資料9】規範意識や思いやりの心(小・中学校)



- 学校のきまりや友達との約束をきちんと守るなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。
- 中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。
- 家庭や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であるととらえている。

2- (4) 達成感や意欲

【資料10】達成感・成就感や意欲(小・中学校)



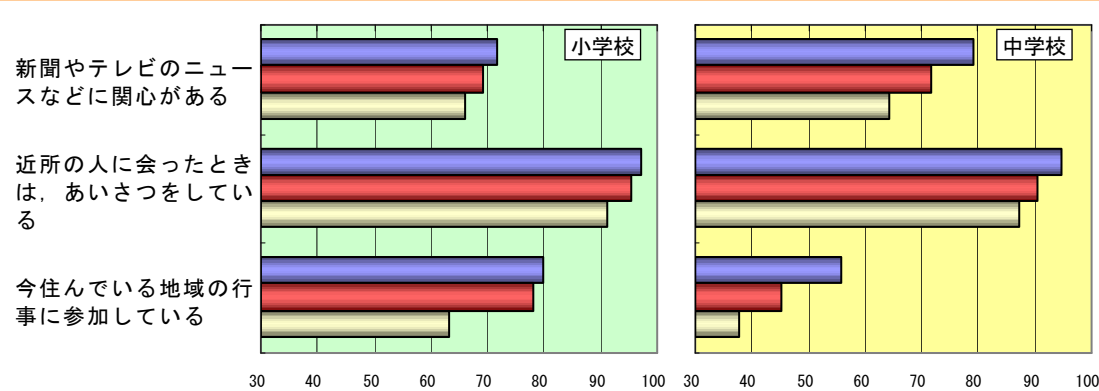
- 全国や県に比べ、多くの児童生徒が達成感や成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。
- 中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、「普段の授業で自分の考えを発表する機会がある」について肯定的な回答の割合が増加している。
- 各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であるととらえている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国と比較】児童生徒質問紙調査結果より

【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり(小・中学校)

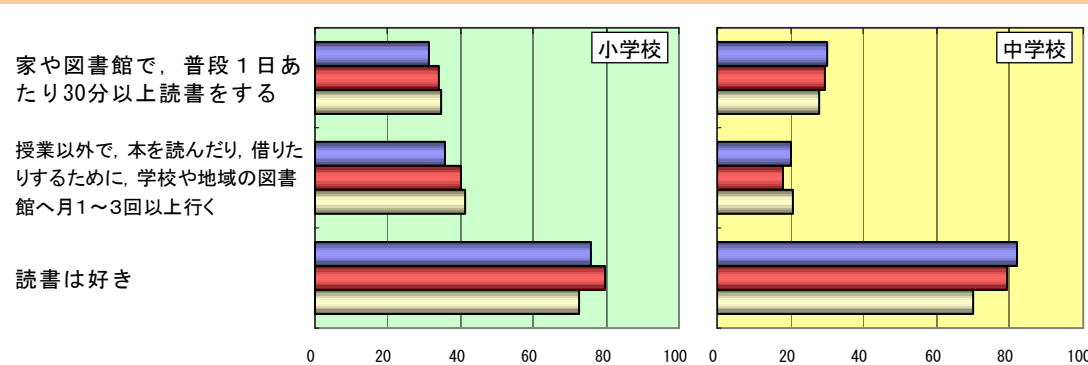


- 小・中学校共に「新聞やテレビのニュースに関心がある」と回答している割合が高い。
- 近所の人への挨拶や地域行事への参加の状況は、小中学校共に国や県よりも上回っている。
- 中(小)学生サミットを通して児童生徒主体の挨拶運動をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域との関わりも深めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と大仙市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

2 - (6) 読書習慣



【資料12】読書に関する状況(小・中学校)



- 小学生の読書時間や図書館利用が国や県平均を、下回っている。また、読書が好きであると答えた割合も県平均を下回っている。
- 学校質問紙調査の結果によると、小学校では一斉読書の時間を週に複数回設定しているところが100%であるが、中学校では設定が月に数回というところがある。
- 市教委は「大仙市っ子読書の日」を制定したり「ふるさと納税文庫」を設置したりなど、読書活動推進計画を実践しているが、さらに充実させていきたい。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況はおおむね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と5科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】

〈相関がみられた主な項目〉

- 毎日同じくらいの時刻に起きている。 ○毎日同じくらいの時刻に寝ている。 ○ふだん午前7時前に起きている。
- 家の人と学校での出来事について話している。 ○ふだん1日1時間以上テレビ等をみる。 ○ふだん1日1時間以上ゲームをする。
- ◎ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。(中学校) ◎学校のきまりを守っている。(中学校)
- 友達との約束を守っている。 ○近所の人に会ったときはあいさつをしている。 ◎人の気持ちが分かる人間になりたい。(中学校)

【学習習慣等】

〈相関がみられた主な項目〉

- 自分で計画を立てて勉強している。 ◎学校の宿題をしている。 ◎学校の授業の復習をしている。
- 授業以外に図書館を利用する。 ○読書が好きである。 ○新聞やニュース等に関心がある。

【調査問題への取り組み】

〈相関がみられた主な項目〉

- ◎国語で解答を文章で書く問題に最後まで書こうと努力した。 ◎算数・数学で言葉や式を使って説明する問題に最後まで書こうと努力した。 ◎理科で言葉や文章を使って理由を書く問題に最後まで書こうと努力した。

【授業への取り組み】

〈相関がみられた主な項目〉

- ◎授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。(小学校) ○原稿用紙2、3枚の文を書くのは難しい。
- 普段の授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っている。(中学校) ○自分の考えを他の人に説明したり文章に書くことは難しい。
- 国語の授業で考えの理由が分かるように書いている。 ○長い文章を読むのは難しくない。
- 算数・数学の授業の内容がよく分かる。 ○公式やきまりを習うときその理由を理解しようとしている。
- ◎数学でもっと簡単に解く方法がないか考える。(中学校)

V 学習環境と学力調査との相関

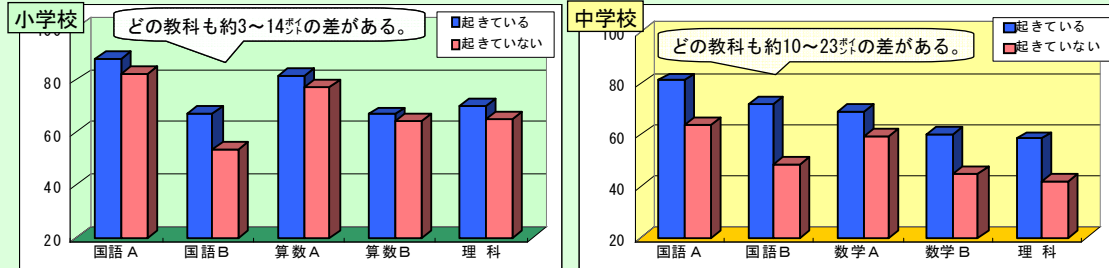
2 相関

2-(1) 家庭での生活

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

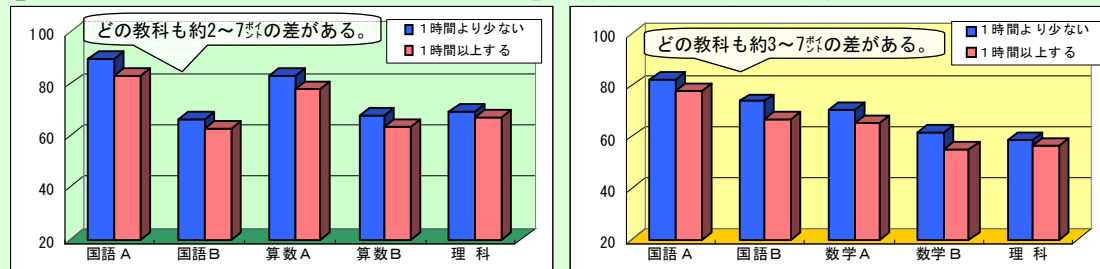
【資料13】

【毎日、同じくらいの時刻に起きている】 〈質問番号(3)〉



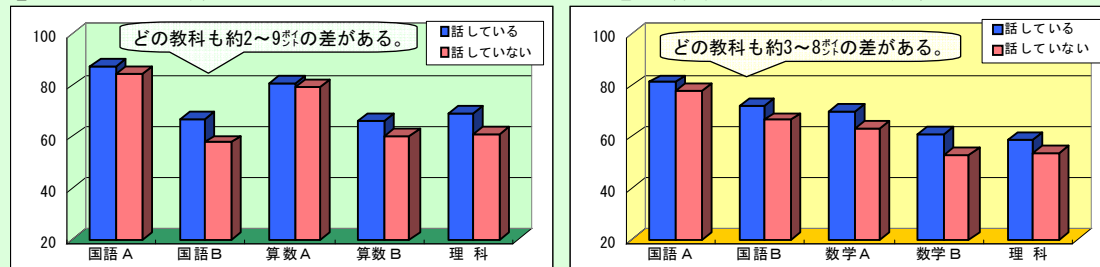
○毎日、同じくらいの時刻に起きていますかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高く、中学校の方が顕著である。

【平日1時間以上、テレビゲームをする】 〈質問番号(11)〉



○ふだん(月~金曜日)、1日あたりどれくらいの時間テレビゲームをしますかという質問に、「1時間より少ない」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率がわずかに高い。

【家の人と学校での出来事について話している】 〈質問番号(20)〉



○家の人と学校での出来事について話をしていますかという質問に、「話している」「どちらかといえば話している」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

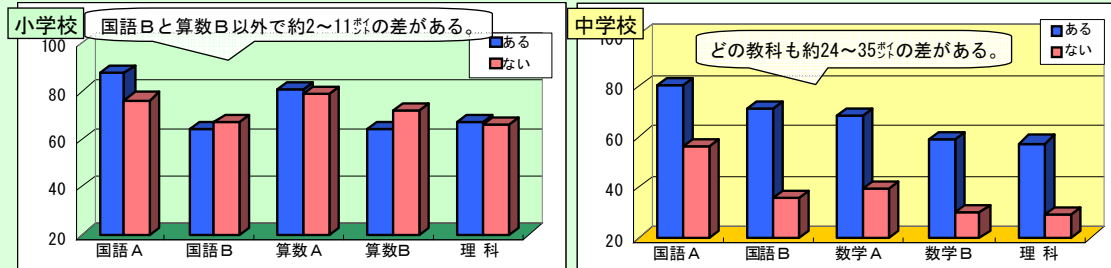
V 学習環境と学力調査との相関

2-(2) 達成感、規範意識、友達関係等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

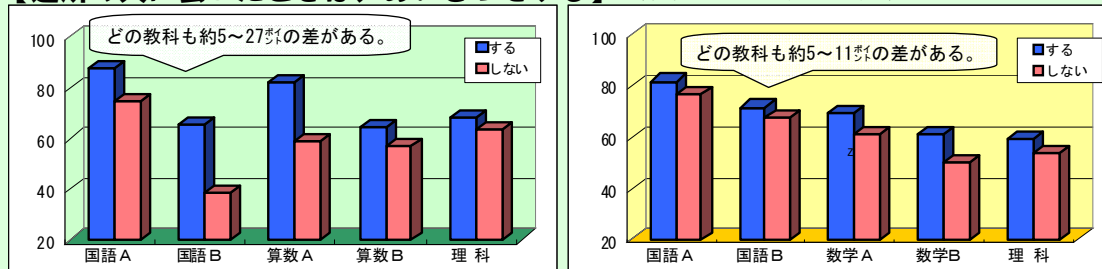
【資料14】

【ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある】〈質問番号(4)〉



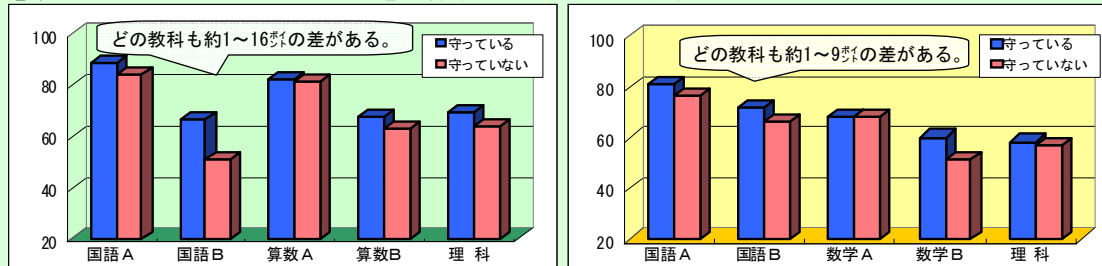
○ **ものごとをやりとげて、うれしかったことがあますか**という質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの、小学生は国語と算数のA問題と理科で、中学生はどの教科でも平均正答率が高く差が大きい。

【近所の人に出会ったときは、あいさつをする】〈質問番号(34)〉



○ **近所の人に出会ったときはあいさつをしますか**という質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【友達との約束を守っている】〈質問番号(33)〉



○ **友達との約束を守っていますか**という質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

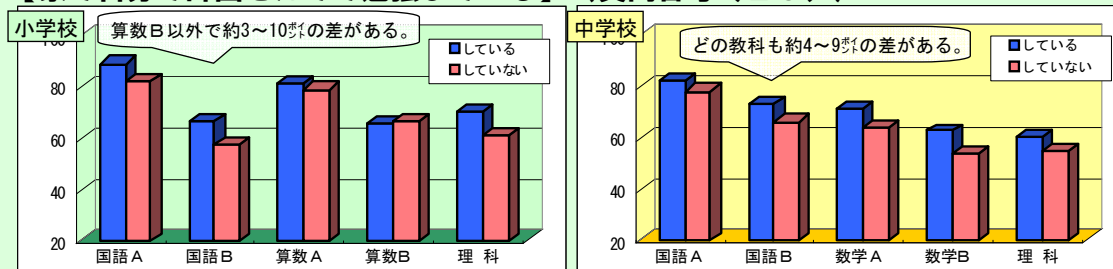
V 学習環境と学力調査との相関

2-(3) 家庭学習の習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

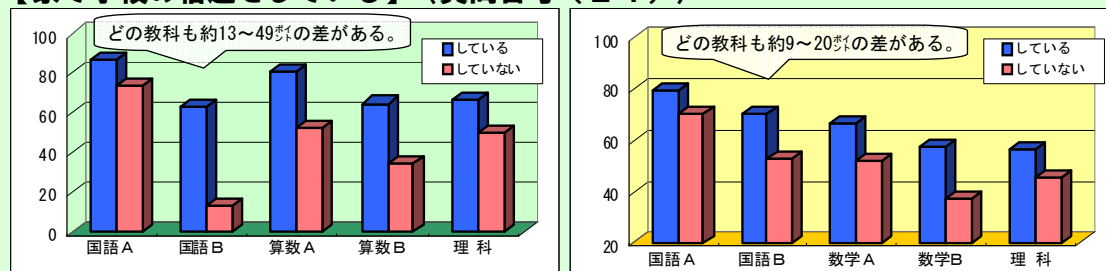
【資料15】

【家で自分で計画をたてて勉強している】〈質問番号(23)〉



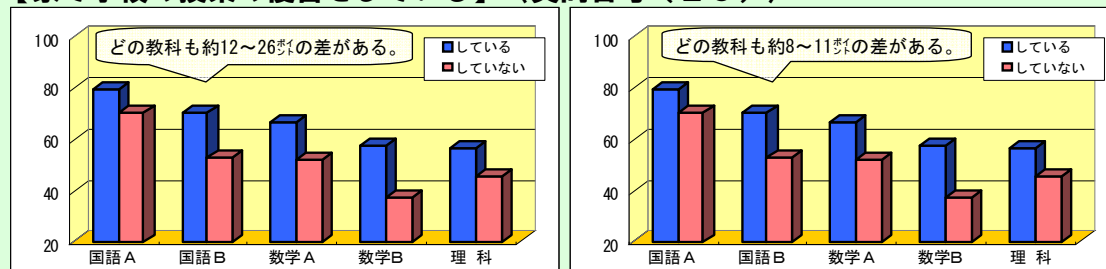
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【家で学校の宿題をしている】〈質問番号(24)〉



○家で学校の宿題をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【家で学校の授業の復習をしている】〈質問番号(26)〉



○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

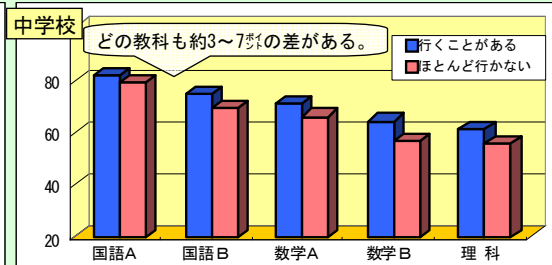
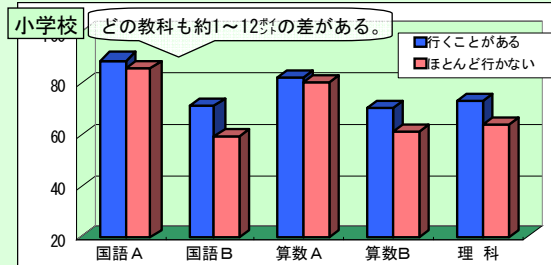
V 学習環境と学力調査との相関

2-(4) 読書習慣、ニュースへの関心

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と
(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

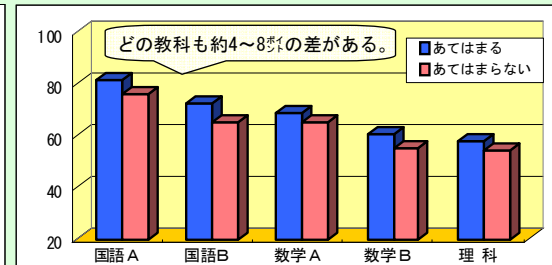
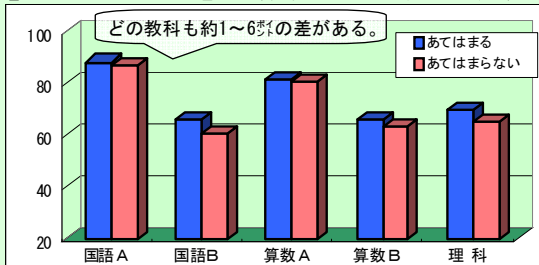
【本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館に行っている】〈質問番号(18)〉

【資料16】



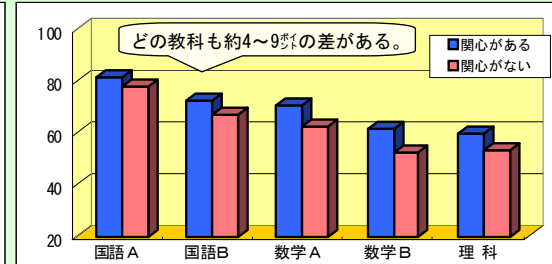
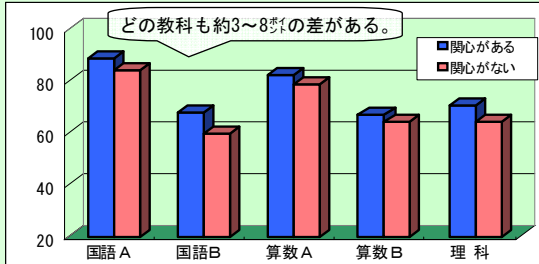
○**昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校や地域の図書館にどれくらい行ってますか**という質問に、「行くことがある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【読書は好きだ】〈質問番号(48)〉



○**読書は好きですか**という質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、ほとんどの教科で平均正答率が高い。

【新聞やテレビのニュースなどに関心がある】〈質問番号(28)〉



○**新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか**という質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

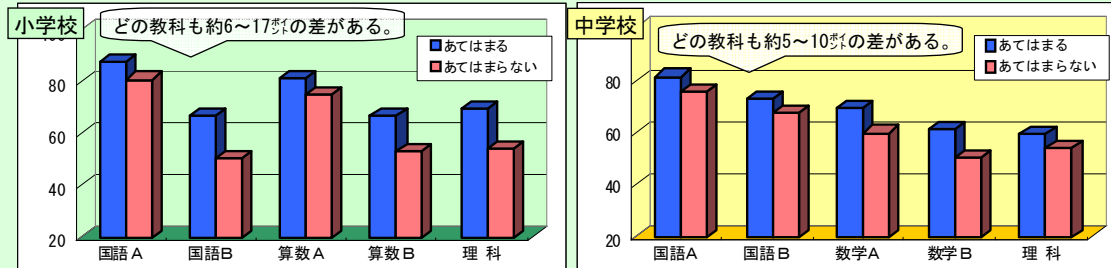
V 学習環境と学力調査との相関

2-(5) 授業への取り組み

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

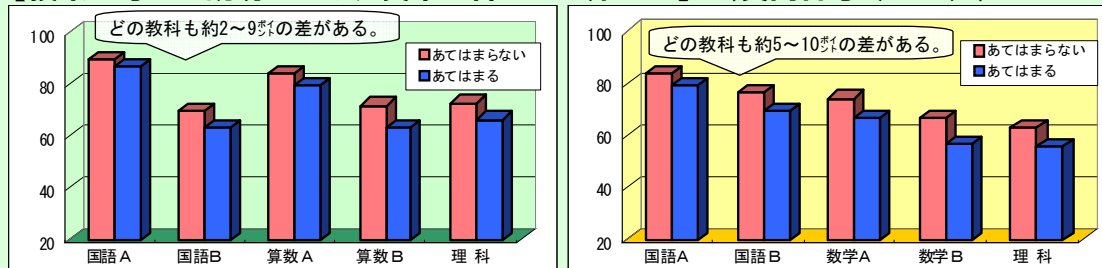
【資料17】

【授業で自分の考えを発表する機会がある】〈質問番号(41)〉



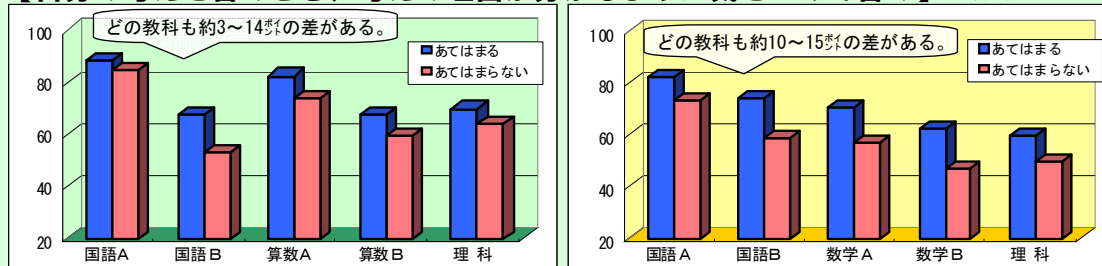
○授業で自分の考えを発表する機会があたえられますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【授業で考えを説明したり、文章に書くのは難しい】〈質問番号(44)〉



○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。

【自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書く】〈質問番号(52)〉



○自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書きますかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、平均正答率が高い。